

## 三月の辛い別れ

陳婷婷（中国・経済学研究科）

此の情け追憶を成すを待つ可けんや、只此れ当時既に惘然

別れとは、ただ次の再会のためのものかも知れない！

別れとは、天の両端にいるようで互いに忘れてしまうものなのかも知れない！

三月、日本の最も美しい季節。桜が満開になるまで少し少しずつ咲くのを私は待っていたが、桜の花の満開には至らなかった、一夜の雨に桜の花大半が散ってしまったから。まさに賈平凹先生の言ったとおり、「本来、この春の雨に会えば花はもっと艶やかになるし、香りももっと濃くなり、このようにその命がはかないは思わない、一片、一片風と雨に連れられていった。

日本ではこの季節になると別れの雰囲気漂う。転勤、進学、引越し、就職、帰国・・・・・・至る所でみんなの心が落ち着かなくなる。桜の花の美しさは別れの寂しさを際立たせ、心に深く刻まれる。すでに過ぎたこととは言え、私は今年の主人公ではないが、しかし、今も胸がしめつけられるようで息が出来ないほど苦しくなる。今は別れと言うことにまだ慣れていない、もしかしたらこの感情に永遠に慣れることはないのかもしれない。別れはとても怖い、いつも気持ちが変わって、思いが淡くなって、影も形もなく消えてしまいそうに感じる。

瑤ちゃんはどうとう今年の桜を見ることが出来なかった、彼女は何回も帰国すると言っていたが実際に帰ったとは思わなかった。来る時はいろいろな苦勞をしたし、今はまだ何も身につけていないから。彼女と一緒に帰るのは何回も別れたり付き合ったりしている彼氏だ。彼らがずっとけんかしながら過ごしていたのを私はずっと見ていたが今までずっと付き合うとは思ってもいなかった。二人と一緒に帰国し、家族に会って、結婚するようになったとは思ってもいなかった。私は友情の価値が高いと思った方がいいか、愛情の力が弱いと思った方がいいか分からない。その人のために帰国する価値があるかどうか判断することも出来ない。ただ驚き、離れ難く、やりきれない、大変悲しい。ただ、今は毎日彼女が楽しく物事が思いどおりになって、私が知っていることも知らないことも願いがかなう、ことを望んでいる。

コンビニで一緒に仕事をした三歳下の女の子はすでに結婚して四年になる、お化粧が濃くて、長い付け睫毛もつけて、いろいろな色のマニキュアもして煙草を吸うときは優雅で手慣れている。しかし、優しくて親切な人である。私が面倒なことに出会った時は、彼女はすぐに飛んできて私を助けてくれる。私が

休憩室に入る時煙草を吸うのを途中で、もすぐにやめてくれる。少し暇な時は私に中国の事を聞いたり、簡単な中国語の発音を勉強したりした。「もしあなたにボーイフレンドが出来たら絶対連れて来て私に会わせてね」と言った。私は「いいよ。でもまだこの言葉が耳に残っているうちに彼女はご主人の転勤で家族で神戸に引越ししてしまった。

モスバーカーでアルバイトをしていた頃、初めて火傷した時に一緒に働いていた女の子は氷を包んで持ってきて私の手の上に置いて冷やしてくれた。一緒に働いていた仲のいい男の子は心配してすぐに言った「あなたはお金のために命を捨てるの？ どうしてそんなに不注意なの。」私は冗談で答えた。「私はとても欲張りよ。お金も欲しいし、命も欲しいわ。あなた達心配しないでね。」彼らの思いやりのおかげで酷い火傷もそれほど痛いと思わなかった。最近又同じ場所で火傷し顔をしかめた。しかし、顔をしかめても私しかいない……………

国にいる友達は「国で牡丹の花を見に行ったらけれどあまり感動しなかった。」と言った。私は自信満々に言った。「桜の花の艶やかさには必ず驚かされるわよ。」でも友達は聞いた。「どのように艶やかなの？」私はとっさに答えられなかった。よく考えるとそれはただ感覚だけのような気がする。初めて桜を見た時の感じだけは心に残っている。しかし、具体的にどのような艶やかさかは説明できない。だから友達に「来週はお花見に行こうか」と誘ったら、「来週は桜はまだ咲いているの？」と友達に言われた。本当に友達の言うとおりでとは思ってもみなかった。花びらを踏みながら「美しいものはかないなあ」と感嘆した。樹齢千年の木の前に足を止め、仰ぎ見ると枝枝は四方に伸びて大空の大半をさえぎっていた。突然、自分の小ささを感じた。空をさえぎったり地をおおったり出来なく、したい放題にも出来ない。自分の小ささがわかった。自分の小ささに気づいて、そして認めた上で向上をはかるということは今自分が出るただ一つの事かも知れない。

瞬く間に桜も散って、三月は過ぎ去った。

瞬き間に人生は花が凋むように終え、一生は終わりを告げる。

瞬く間にいったいどんなことが起こるのだろうか？